

2020年11月15日 大井バプテスト教会 礼拝説教  
説教題「希望の収穫に向かって」マタイ13章24～30節

主任牧師 加藤 誠

**「主人は言った。『いや、毒麦を集める時、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。』(マタイによる福音書13章29－30節)。**

新共同訳では「毒麦のたとえ」と小見出しがついている、なかなか興味深いたとえ話です。「麦畑に良い種だけを蒔いたはずなのに、なぜか毒麦も生えてきた」という状況が語られています。このたとえ話に出てくる「主人」は「神」のことなので、「神はこの世界に良い種だけを蒔かれたはずなのに、なぜ毒麦が生えてきてはびこっているのか」。つまり「神は愛であるのに、なぜこの世界には悪がはびこり、憎悪や対立、悲しみにあふれているのか」という、聖書を手にした人が一度は心に抱くであろう問いを扱ったたとえ話と言えるでしょう。

たとえの中で、麦畑の主人は「毒麦が生えてきたのは敵の仕業だ」と答えます。敵とは「サタン、悪魔」のことでしょう。それを聞いた僕たちが「では、その毒麦を抜き集めましょうか」と進言しますと、主人は言うのです。「いや、毒麦を集める時、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで両方とも育つままにしておきなさい」と。刈り入れの時期になれば麦の穂と毒麦の穂の見分けがはっきりするけれど、それまでの成長段階では麦と毒麦の見分けは紛らわしい。間違っって良い麦を抜いてしまうことがないよう、刈り入れの時まで待ちなさいと言われたのでした。

このたとえ話で主イエスが言わんとされていることの一つは、「神の御心は、私たち人間にはとらえきれない。『これは毒麦だ』『これは良い麦だ』と先走って答えを出してしまうな。私たちの目には『毒麦』に見えるものが『良い麦』だったということもあるのだから」ということだと思います。私たちの「小さな、視野の狭い正義感」が神の大らかなでしなやかな働きを台無しにしてしまうことがある。だから焦らずにもう少し待ってみよう。神さまは最後には「何が良くて、何が悪いのか」をはっきりさせてくださるから、その神さまの働きに委ねようということでしょう。

旧約聖書の「伝道の書」(新改訳)7章16節にはこのような言葉があります。

「あなたは正しすぎてはならない。知恵がありすぎてはならない。なぜあなたは自分を滅ぼそうとするのか」。私たちはつい自分の「正しさ」を大上段に振りかざして他人を裁いてしまうところがありますが、聖書は「正しすぎるな」、「知恵がありすぎるな」、それは「あなたを滅ぼすことになる」というのです。使徒パウロも「ですから、主が来られる時までは、先走って何も裁いてはなりません」(第一コリント4・5)と戒めています。

わたしの「正しさ」ではなく、神の「正しさ」が最終的に実現していくことを祈っていく。わたしが「毒麦」と決めつけていたものを、神は「良い麦」としてお用

いになることができる方なのです。ですから神が用意しておられる不思議で豊かな収穫に期待し委ねることを学びなさいと主イエスは教えてくださったのです。

もう一つ、このたとえ話を読んでいて思ったことは、「良い麦」と「毒麦」と書かれていると私たちはつい「神から見たら自分はどっちの麦だろう。良い麦だろうか、悪い麦だろうか」という読み方（つまり「麦＝誰か」という読み方）をしてしまうのですが、そうではなく「良い麦も毒麦も混在している麦畑＝わたし」という読み方をしてみてくださいはどうだろうかということです。つまり「わたしという麦畑に神さまは良い麦（愛）をたくさん蒔いてくださったのに、なぜか毒麦が何本も生えてきてしまっている。いったいこの毒麦をどうしたらよいのだろう」という問いを持ちながらこのたとえ話を読むということです。その時に聞こえてくるのは、「人間である私たちの力では心の中の毒麦を完全に抜くことはできない。ただ、刈り入れの時に示される主イエスの十字架の恩寵のみが、わたしの中に根深く生えている毒麦を抜いて焼き尽くしてくださる。その主イエスによる「希望の収穫」に向かう信仰をいただいでいこう」という呼びかけです。

わたし自身、自分を見つめる時に、自分の欠点、弱さ、情けない所をどうにか克服したい、修正して、神に向かう部分を強めたいと日々思うのですが、なかなかできません。御言葉からいただく力で、祈りの力で…と、朝祈る時には神に心を向けながらも、一日終わって振り返ると、無残な結果に落ち込むわけです。家族からは年々ひどくなっている部分もある…と言われてたりするとほんとうに情けなくなります。

そのようなわたしの中に根深く生えている毒麦。わたしの力ではどうにも抜くことのできない毒麦は、ただ主イエスの十字架の恵みにおいてのみ清められる。これが聖書の福音です。神が用意しておられる最後の収穫、刈り入れとは、わたしがどれだけ神のために頑張ったかよりも、わたしのダメなところをどれだけ主イエスが忍耐し、それでも赦し、祈り続けて来て下さったかが明らかにされる時なのです。どれだけ私が神のために貢献できたかよりも、こんなわたしのために、こんなに主イエスがどれだけ執り成してくださっていたのかが示され、圧倒され、ただただその大きな憐れみの前にひれ伏さざるを得ない。そのように私たちの思いをはるかに超えた、不思議で豊かな恵みを示される収穫の時なのです。

あるいは、先ほども示されたように、わたしが自分の小さく狭い視野で「ダメだ」と思い、「何とか抜いてしまいたい」と思っている毒麦のような部分を、神は不思議にも、神の収穫に向けて生かして用いてくださる方だということです。だからあまり先走りして自分を裁いてしまわずに、「神さま、あなたの恵みの力で、毒麦だらけのわたしを生かしてください。よろしくお願いします」と、麦畑の収穫に最後まで責任をもち、愛と祈りをもってこの小さき者に関わり続けてくださる神に信頼し、委ねていく。そして神が用意しておられる「希望の収穫に向かって」、天を仰ぎ、賛美をささげていく歩みに招かれているのです。